

義歯清掃指導に関する調査報告

発表者 平 倉 ふみ子

池 田 てるみ

昨年第1回の発表会において、婦長より義歯清掃の実態について当院外来患者のアンケート調査が報告されましたが結果として清掃の実態は、あまりかんばしくないと推定されました。今回は、義歯清掃を適切に指導するにはどうしたらよいかを検討するために、引き続き調査を行いその結果を得ましたので報告します。

1. 調査

対象は、外来患者のうち初診時よりすでに義歯を入れている患者12名で、男子3名、女子9名、年齢は45才～71才迄です。もっと多数の患者をとりあげたのですが、個別調査と同時に義歯の清掃方法の実技も合わせて指導しましたので、非常に時間がかかり結果として発表するのは、この人数だけになりました。

表1

義歯の持ち方	つまんでいる 8名		手の平にのせて 4名	
一番注意している部位	気をつけない人7名		床を気をつける人4名	バー1名
よごれ方	床20床	汚れていない 7床	汚れている 13床	
	レストクラスプ27	汚れている27床		
夜間保管	とりはずしたまま2名	水の中に入れて5名	口の中に入れたまま5名	




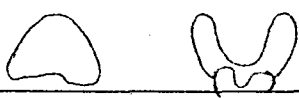


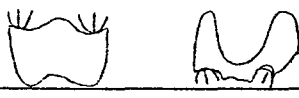


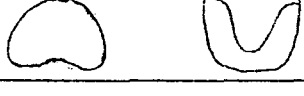
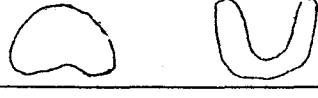

2. 方法

- 1) はじめに問診によってアンケートをとる。
- 2) 患者が、日常行っている方法で、実際、義歯を洗わせてみる。
- 3) 洗った義歯を口に入れさせ、カラーテスターをかませ、汚れた部位の着色を調べる。カラーテスターは、口腔内域頭示剤で、口腔内にふくんでいますと汚れた部位が、まっ赤に染まるようになっていきます。この薬を使って、義歯の汚れを調べるわけです。
- 4) その結果を患者にみせ、正しい清掃法を指導する。
- 5) もう一度、患者自身に洗わせて、清掃法を習得させる。

3. 結果 表2

1) この表に見る通りです。義歯の洗い方について見ますと、どの部分を洗うべきか、あまり気をつけていない人が多く、実習させても自分でよく思い出せない人が、かなり多い。

表2

氏名	性別 年齢	義歯の種類			洗う		
		形	数	回数	回数	時期	洗剤
T.K	66		1	3	2	食後	歯みがき剤
S.M	58		2	3	3	食後	なし
T.M	55		2	5	1	起床時	歯みがき剤
K.Y	45		2	2	3	食後	なし
Y.S	46		1	2	2	食後	なし
F.T	68		1	3	1	洗面時	歯みがき剤
Y.T	53		2	4	4~5	食後	歯みがき剤
K.O	64		1	2	3	食後	なし
T.Y	54		2	3	2	朝・夕 食時	歯みがき剤
H.T	71		2	0	1	就寝時	歯みがき剤
N.F	69		2	0	3	食後	歯みがき剤
O.K	63		2	0	3	食後	食塩 歯みがき剤
計	12名	床 20床	レストクラスプ 37				

- 2) カラーテストの結果では、グラフに見る通り一口に言えば、どこもかしこも汚れているのですが、とりわけ、クラスプのような細かい部分の清掃が不良で、12人の患者の口の中にある27個のクラスプは、すべてカラーテストで、まっ赤に染まりました。
- 3) つまり洗う回数だけは、過半数の人が、食時ごとに洗っていますが、その洗った内容が、まことにおそまつだったということです。
- 4) 洗う回数についても、1日1回という人と総義歯を入れていた人は、歯がないからもう悪くなる場所もないという考えを持っているのには、閉口しました。
- 5) 次に夜間の義歯保存についてですが、口の中へ入れたままの人が多く、これについては、義歯を作った時、歯科医又は介助者の指導が何もなかったことがわかり、私ども介助者の仕事の一端が見過ごされていたことに大きな反省が残りました。

次に清掃の指導についてですが、ここで私達が行っている義歯の清掃方法をお伝えします。

(スライド説明)

- 1) 義歯を洗う場合には、水かぬるま湯を用い水を入れた洗面器を下に置いて、流水のもとで洗います。
- 2) 義歯を洗う時には、ブラシや歯みがき粉も使いますが、汚物を洗い流すには、なんといっても十分な流水で洗う事が第1です。又洗面器を下に置く事は、不用意に落した場合でも破損を防ぐためです。口の中に入れる物ですから、汚れた流しの上や、ましてゆかに落しては、大切な物ですから注意します。
- 3) 洗う時の義歯の持ち方ですが、落さないようにと気を使うあまり、義歯全体を握りしめると、握る力で、割れることがあります。
- 4) 下顎の総義歯を手の中に握りしめるのが義歯破損の最も多いケースとされています。
- 5) 義歯のまん中、あるいは、片端を持ってブラシを使います。
- 6) 義歯の汚れやすい部分に、人工歯の並んだ凸凹の多い部分があります。
- 7) クラスプのある部分については、特別のブラシがあります。(市販されている)義歯の細部がみがけるように、小さな毛たばが両面についてます。

4. 義歯の保存

義歯の材料として使われるレジン、口腔内にある時、化学的に最も安定した材料です。すなわちアクリルレジン、摂氏30〜40℃のほぼ中性である唾液の中で使用されるように作られた材料ですので、夜間、義歯をはずした場合にも、できるだけ口腔内の状態に近いようすい食塩水中に保存することが理想的です。(口の中は唾液腺から排出された唾液が流れて常に洗われ

るようになっておりこれを口腔の自浄作用と言いますが、歯ならびが悪かったり残歯が入っていたり口をあけて寝ていたりすると、自浄作用がそこなわれ口腔内は不潔になります。) 空气中に放置しますと乾燥して、収縮を起しひび割れができやすくなります。そこで置き場所を忘れていたりしないためにも、タッパーなどに入れて、食塩水中に保存するよう指導していますが、この時うすいお吸い物位の塩かげんと説明し、生理食塩水を理解させています。夜間の保存の仕方について、枕元の皿えのせるという人もありましたが唾液のにおいが残っていることと適度な硬さのため、ねずみがかじることがあるという話をして患者の理解を助けています。中には、口の中に入れたままの方がなくなる心配がないという患者もありましたが、就寝時ねまきに着がえて休息することをたとえて説明します。

義歯を洗ったり保存したりするのに、アルコールやクレゾールを使う方もありますが、今回の調査には、見られませんでした。こうした薬物を使うことは、義歯の材質にはかえって悪く、薬剤を十分に洗い流せないままで口の中に入れますと、口腔粘膜を刺激し薬物性口内炎の原因にもなります。

以上、調査と日常の指導の概要です。義歯の清掃や保管に関する理論は、詳しく話すとなかなかむづかしく若い人ならばともかく対象となる患者は、一般に高年齢者が多いので、どの程度に理解いただけたか疑問があります。理論的な説明をすることよりも日常の物事にたとえて理解させることが、効果的ではないかと思いました。

手術看護記録の作成と工夫

発表者 平 沢 多世子

中央手術部看護婦一岡

- 1) はじめに
- 2) 看護記録の作成と工夫—その経過
- 3) 記録の活用
- 4) 記録の紹介
- 5) ま と め
- 6) 今後の問題点

最近の手術手技と麻酔学の進歩はめざましく、手術看護の内容もそれにつれて、ますます複雑多岐となって来ました。